内田魯庵

お話は御迎の件若し出版部にて何かの
に披露とりゆうするならば席末に陪する
栄ならば格別なれど翌十四日ならば宜し
その仰せなれ さう存じ思ひます 若しに御談
にて漏るるならば遠き御読談よりは近
きお宅へ参上するのが小生の勝手には故
明後日夕は差支へなく 来る十一日の午
水曜日の朝には悟ごろ参上へ参りますれば 参
上にて伺ふは都合四日は差支ある存じ
ますドレナケ相談にならば 一両日か一両日中の
ゆりは御消子ならむを念じ 貴御御自愛

当夕

ゆうま

中嶋先生
侍史